

川崎汽船、アジア-メキシコ/南米西岸サービスを改編

Edited By LogisticsToday On 2012/04/11

川崎汽船は11日、アジア-メキシコ/南米西岸サービスを4月下旬に改編すると発表した。今回の改編は、異なる寄港地をカバーする2つのサービスループを大型コンテナ船11隻による1ループ(ANDES)に統合し、同時にメキシコ-南米西岸港間のフィーダーサービス(MSX)を開設するもの。

寧波からチリ・ペルーへの直航サービスを可能とするなど、顧客ニーズに対応。ブエナベンチュラ(コロンビア)・グアヤキル(エクアドル)向けは、それぞれマンザニーロ・カヤオでANDESサービスからMSXサービスに接続し、ウィークリーサービスを提供する。

改編後、ANDESは5600TEUと6500TEU型コンテナ船11隻を投入(川崎汽船3隻、商船三井3隻、日本郵船5隻)し、26日に基隆港への寄港船から開始。MSXは2100TEU型コンテナ船3隻を投入し、5月26日から開始する。

■ 寄港地

ANDES:基隆-香港-ダーチャンベイ(深セン)-廈門-上海-寧波-釜山-マンザニーロ(メキシコ)-カヤオ(ペルー)-イキケ(チリ)-バルパライソ(チリ)-リルケン(チリ)-カヤオ-マンザニーロ-東京-基隆

MSX:マンザニーロ(メキシコ)-ブエナベンチュラ(コロンビア)-カヤオ(ペルー)-グアヤキル(エクアドル)-マンザニーロ

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/30172>

Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.